

# 有害鳥獣イノシシによる被害防止を

## 答 広域的捕獲を検討



平野 龍彦 議員

- 問** 環境省によるとイノシシの全国の被害額は10年前から変わらず50億円。本町においても、イノシシの被害は深刻。特に被害が多い自治会へ足を運び、現場の声を聴くべきでは。
- 答** 農林振興課長 イノシシ被害調査の見回りはしている。平成30年度農業共済は8軒。被害額は19万円程、被害面積は65アール。環境調査はしていない。
- 問** 環境省によるとイノシシの生息は全国で88万頭。本町にも多数生息。住民の生命・生活・財産・身体を守ることが現在できていないのでは。
- 答** 課長 イノシシ捕獲頭数は平成29年度61頭。農林産物の被害低減のための捕獲を行っている。
- 問** 環境省と農林水産省は平成35年度までにイノシシの個体数半減計画を立てた。この国の計画に従うべきでは。
- 答** 課長 周辺自治体と連携しての広域的捕獲を検討したい。
- 問** 去る10月26日の早朝、今宿駅でイノシシに何度も噛まれた男性は13針を縫う重症。平成24年度から国は実施隊を重点的に支援。地域の協力が不可欠では。
- 答** 課長 各地区の実施隊員計14名が連携して捕獲をしている。
- 問** イノシシの行動範囲や生息に基づいた対策がとれる専門職員の配置を。
- 答** 課長 現時点では配置は考えていない。
- 問** 平成19年の鳥獣被害防止特別措置法を受けて、本町でも鳥獣被害防止計画を立てたが、狩猟捕獲者は高齢化。担い手の確保は。
- 答** 課長 30代と40代が各1名実施隊に参加。
- 問** 多くのイノシシ被害情報がある。「自主防衛」を広報で周知するべきでは。
- 答** 総務課長 文書による周知は慎重に対応したい。
- 問** イノシシの寝床となる休耕地対策は。
- 答** 農林振興課長 農地の貸付けや葉草作物の栽培を進めている。
- 問** 国は捕獲から消費を推奨。地域資源の有効活用と食育・地産地消の推進の立場から、捕獲後の出口対策として、ジビエ処理加工施設を。
- 答** 課長 国からのジビエ利用モデル地区の指定は要件的に困難。
- 問** 全国では手ぶらで行ける農園等の成功事例がある。本町の休耕地で農園開設を。
- 答** 課長 町民農園が3か所ある。新たな農園開設は難しい。
- 問** 地産地消の推進と農業振興の促進の観点から、本町の休耕地で育てた果樹・果物・穀物などを、道の駅で販売しては。
- 答** 課長 今は考えていない。仮に生産者の意識が高まれば、直売所は検討していきたい。
- 問** 休耕地を小中学校農業体験に活用しては。
- 答** 教育長 地域等との連携をとおして計画的に進める。
- イノシシ・シカなどの有害鳥獣の出没、目撃情報をご連絡ください。お困りごとは農林振興課へ  
092193412223



時任 裕史 議員

## 職員採用は公平・平等であるべきでは

**答** 今後は、透明性を重視し一般競争試験を行う

**問** 町長は、9月定例会並びに11月5日及び同月26日に行われた全員協議会において、最終処分場職員の採用については、今後も公募による一般競争試験は行わず、選考試験によって明治町居住者を優先し採用すると説明をされていた。

その際、採用については公平・平等であるべきで、公募を行うべきだと再三にわたり申し上げてきたが、町長は断固として考えを変えられなかった。

しかし、12月定例会初日の本会議終了後、緊急に全員協議会が開かれ、そこで町長は、今後の最終処分場職員の採用については、一般競争試験で採用を行うと報告。その理由は、

**答** 町長 宇美町は職員採用にあたっての人事委員会を設置していないため、職員を競争

試験または選考試験で採用することができ、これまでの採用は法的に何ら問題はない。

しかし、11月に行われた全員協議会において、議員各位から公募を行うべきと強いご意見をいただいたが、住民の各方面からも、公募の方が透明性があるといった指導、助言を多くいただいた。その後、役場内部で何度も協議を重ねた結果、公募を行うほうが望ましいという結論に至った。

また、明治町の方々にこの件に関してお願いと相談をしたところ、厳しい意見も頂戴したが、合意に至った。

**問** 当該人事案件に対し、役場内部から町長の耳に疑問や反対の声は届かなかったか。

**答** 町長 私の耳には届いていない。

### 蹴-1グランプリ福岡大会in宇美町 誰もが楽しめるスポーツイベントで町を活性化

2月3日(日)に宇美町総合スポーツ公園で町制施行100周年記念イベント「蹴-1グランプリ福岡大会in宇美町」が開かれました。

蹴-1グランプリ発祥の地で、宇美町と同じく来年町制施行100周年を迎える宮崎県都農町チームをはじめ、県内外54チーム(宇美町から14チーム)が参加、元日本代表FWの山下芳輝さん(東福岡高校出身)や、宇美町スポーツ少年団出身でデフサッカー日本代表GKの松元卓巳さんもゲスト参加していただき大変盛り上がった大会になりました。

宇美町議会からも大会を盛り上げようと、「宇美ギーンズ」として参加しました。

平和地区にお住いの野間口圭介さんは、アンプティサッカー日本代表兼テクニカルディレクターをされています。今回はFC九州バイラオールで参加され、見事準優勝に輝きました。



デフ(聴覚障がい者)サッカー日本代表GKの松元卓巳さんは、蹴-1グランプリを盛り上げようと「100th Anniversaryチーム」の一員として参加し、都農町チームとの対戦でも大活躍しました。